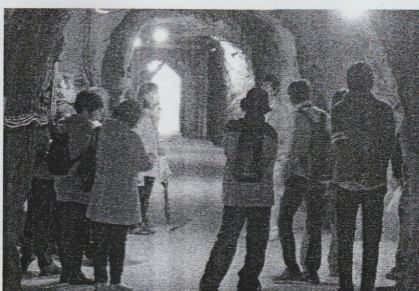
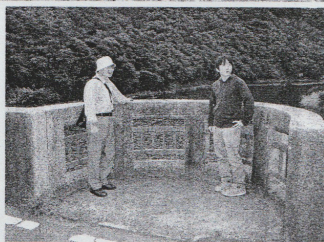


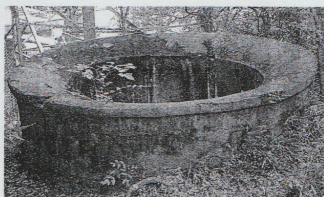
緩やかなアーチが美しい「境橋」



現在は酒蔵として活用されている「東京動力機械製造地下工場跡」(昨年3月撮影、那須烏山市提供)



「境橋」の橋脚に設けられたバルコニーに立つ福島准教授(左)ら



敵機の来襲を監視していたという「烏山防空監視哨」(那須烏山市提供)

境橋 那須烏山市宮原～大沢地内。主要地方道常陸太田那須烏山線で、那珂川の溪谷に架かる。

東京動力機械製造地下工場跡 同市神長地内。島崎酒造(0287・83・1221)の洞窟酒蔵として使われており、4月から11月までの土日祝日などに無料で開放される。開放日以外の見学は前日までに予約が必要。

烏山防空監視哨 同市中央1丁目、市役所の北西にある筑紫山の山頂。近代化遺産に関する問い合わせは、市まちづくり課(0287・83・1151)へ。



JR東日本は、烏山駅発で那須烏山市内の近代化遺産などを巡る「駅からハイキング」を11月18日に実施する。烏山高生がガイド役を務める。「境橋」「東京動力機械製造地下工場跡」「烏山通運石造り倉庫群」「旧烏山

駅からハイキング 烏山高生がガイド

病院(現烏山和紙会館)などを訪れる。所要時間約4時間30分、歩行距離約13.5キロ。定員200人。無料だが、同14日正午までに予約する。問い合わせは、事務局(03・5719・3777)へ。

とちぎ見聞録

那須烏山市によると、市内の近代化遺産は、烏山高生や商工団体、行政担当者をメンバーに2006年に設立さ

那須烏山市には、「近代化遺産」と呼ばれる建造物や構造物が多く残されている。幕末から第2次世界大戦期にかけて、欧米からの新しい技術や文化、制度の導入によって建設され、日本の近代化に貢献したもので、同市ではこれまでに17件を確認、うち14件が現存している。そのいくつかを紹介する。(小堀日出春)

那須烏山市の近代化遺産

美しい境橋や地下工場跡

れた「市まちづくり研究会」(委員長・福島二郎足利工業大准教授)が調査、確認している。

福島准教授(62)にまず案内してもらったのは、その代表格とされる「境橋」。「関東の嵐山」と言われた那珂川の「落石」に架かる、長さ112・5メートルの鉄筋コンクリートの橋で、1906年に完成した。河川側から見ると緩やかで美しいアーチを描いており、橋脚上には、円形のバルコニーが4か所設けられている。

福島准教授らの調査で、東京・お茶の水の「聖橋」や、隅田川橋梁群などを手がけた橋梁設計の第一人者、成瀬勝武の設計であることが分かったという。福島准教授は、「紅葉の名所の落石の美しさに魅せられた成瀬が、景観を壊さないよう設計し、橋の上からの景色を見てほしいとバルコニーを作ったのだろう」と解説してくれた。

次に訪れたのは、「東京動力機械製造地下工場跡」。高さ、幅とも3・5メートルの3本の坑道の山頂にある「烏山防空監視哨も近代化遺産だ。直径約4メートル、高さ約1・5メートルのコンクリ

ート製で、戦争中に敵機の来襲に備えて造られた。当時は24時間体制で哨員が詰めていたという。こうした防空監視哨は県内で47か所に設置されたが、現存するのはこと鹿沼市の二つだけ。風化しつつある戦争の記憶を伝える貴重なもの(福島准教授)という。那須烏山市内の近代化遺産はほかに、「旧烏山病院(現烏山和紙会館)」「烏山通運石造り倉庫群」「森田トンネル」などがある。

「手を加えないと、どんどん姿を消してしまう」。福島准教授の警告を重く受け止めた。